

第4章 琵琶湖・淀川水質浄化研究所の成果報告

1. 生活環境保全対策・健康リスク問題に関わる調査検討

流域全体が取り組むべき課題、自治体を超えて解決することが効率的、効果的な課題を対象に、行政が適切な施策を講じるために有用となる調査研究に取り組み、流域全体の水環境保全の向上、また、流域連携の推進に寄与することを目的としている。

さらに、流域の水質・水環境情報や成果を当機構のWEB上に公開するとともに、調査研究成果等は関係府県・機関の施策等に活用してもらえるよう評議員会、理事会、幹事会の他、研究助成成果報告会や学会等の機会を利用し、研究成果の情報・知見の提供に努めている。

(1) 琵琶湖・淀川流域におけるノンポイント汚染を対象とした流域水質管理等の流域連携

① 目的

流域自治体との連携を強め共通の課題解決を図ることを目的として、また、流域関係機関の情報共有や今後の調査研究へ寄与するような内容を目指す。

② 研究概要

近年の研究助成成果は内容が高度になり細分化されていることから、BYQを構成する流域自治体の関心が希薄傾向となっている。そこで、流域の連携を図り、さらに強化するために、身近な問題をテーマとして各研究機関と共同で現状や課題、自治体の取り組み・行政の動向などを勉強する検討会を行っている。平成27、28年度は「難分解性有機物」を対象に検討した。そして、平成29年度は、平成30年度の2年間で「ノンポイント汚濁」をテーマとして取り上げ、流域連携のメンバーによる勉強会を実施している。検討会では、琵琶湖・淀川流域にて得られたノンポイント汚染に関する知見や情報を収集整理し、調査方法や原単位、法制度の位置づけ、対策など、今後の水質管理計画のために有効活用できる報告書の作成に取り組んでいる。

③ 結果および今後の展望

流域における情報を収集・整理しつつ報告書全体の構成内容について協議している。とくに、直接的なノンポイント対策以外として「ノンポイントの汚濁負荷に対し付加価値的に削減効果をもたらす方策」等についても収集に努め、新しい観点から各々の検討を進めている。

(2) 流域の水質保全のための流入汚濁負荷調査研究

① 目的

琵琶湖・淀川流域の水質保全のために、水質改善が進まない地域の汚濁負荷量や発生源の影響等について検討を行い、官学連携による水質問題への解決を目指した共同研究の推進と実施を目的とする。

② 研究概要

木津川上流域では、浄水場でのカビ臭やトリハロメタン生成能の問題、木津川上流のダム群の富栄養化によるアオコ発生など、流域において水質保全の課題を抱えている。これら問題を検討するための基礎となる調査を様々な機関と連携で行い、流域一体となった水質保全に向けての取り組みを進める。平成29年度は引き続き流域における発生源の実態や流域特性などの探索的調査を実施している。

③ 結果および今後の展開

木津川上流の環境基準点である家野橋でのモニタリングデータを勘案し、名張川における発生源の予測や起因となる可能性などを検討するために、平成28年度はトリハロメタン生成能にも影響する難分解性有機物を中心に、平成29年度は河川(支川)の実態把握や流域特性なども考慮した調査から、有機物や栄養塩類などの水質濃度や流量の基礎データを収集、さらなる探索的調査の継続による地域の水環境保全や水質改善対策を検討していく予定である。